

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101432		
法人名	有限会社わたなべ		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	石川県金沢市三十町町丁147,148		
自己評価作成日	令和7年2月3日	評価結果市町村受理日	令和7年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和7年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年中、花と緑に囲まれた清潔感のある静かで心安らぐモダンな民家で、ご理解のある地域の方々、資質のある職員に守られ、利用者のプライバシーと尊厳を保っています。自立した生活を目指して、お互いに心から、「お逢いできて良かった」と生き活きた表情の利用者、家族、また職員より言い続けて頂いているホームであり、かつ、四季折々の新鮮な食材を多く取り入れ、カロリーを考えた食事を提供し、これからも「心ある日本のグループホーム」を目指しています。ご家族アンケートでは家族全員の方々から我々の努力している点、色々な面をしっかりと理解して下さい、また、退去者ご家族とも交流が続き、心ある温かい言葉、お褒めと感謝の気持ちを頂き、今後もこの言葉を誇りに、思い、励みとし、心身共に福祉に力を入れたいと再度、職員全員が団結しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との付き合いは、町会活動はじめ盛んに行っている。事業所のすぐ近くに「ひまわり畑」という70坪くらいの自家菜園があり、野菜や花を栽培している。職員と利用者が一緒に種まき、植付、収穫を楽しんでいる。そんな中で自然とその横を通る近所の人と会話が弾み、交流も生まれている。この他ドライブには頻繁に出かけ、バラ園、金沢神社、犀川、花見などに利用者は出かけている。
食材は、畑で採れたものや近所からもったものを有効活用している。これ以外のものは、近くのスーパーへ職員が1週間から10日に1回肉や魚などを買いに行っている。献立は、栄養のバランスとカロリーを考えて、その日の食事担当者がホームにある食材を見て決めている。野菜が足らなかったら畑に採りに行っている。調理は、現在は手伝える方がいないため、職員の方で調理している。出来上がった料理は、常食であったり、刻み、ミキサー食、トロミなど、本人の状態や体調に合わせて提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームを運営するために、管理者、職員は理念、目標、方針を共有し、必須項目①エチケット(礼儀作法)②モラル(道徳、心)③マナー(言動、態度)④ルール(規則、マニュアル)を念頭において運営、実践に繋げている。少しでも楽しく穏やかな日々を過ごせるように、職員一同試行錯誤し、資質を高めながら、地域の方々、ご家族の方々のご理解、絶大なご協力を得つつ、現在も喜怒哀楽を共有している。ミーティングや日々の申し送りで施設長は理念を念頭に職員を話している。	「家庭的で優しく温かな雰囲気の中で、プライバシーを守り自立を基本として、気楽にそして個性豊かに過ごしてもらう」ために毎日の申し送りの際や、毎月の職員会議、毎週のミーティングなどの機会を通じて管理者は常に職員に語りかけている。理念の共有と実践の様子は、毎月のお便りからもうかがう事が出来る。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は積極的に地域のお店や理髪店、近所へ散歩へ出ている際、近所の方と立ち話をしたり、公園に遊びに来ている保育園の子供達と触れ合う機会、町会の行事に参加し交流が多い事業所であるが、コロナ以降、猛暑、能登半島地震やインフルエンザの流行もあり参加を見合わせ、密を避けながらの生活の為、マスクをし、一定の距離を保ちながら散歩をしている。その中で地域の方と、会釈したり、会話をすることで交流が自然と町会と馴染んでいる。	事業所のすぐ近くに「ひまわり畑」という70坪くらいの自家菜園があり、野菜や花を栽培している。職員と利用者が一緒に種まき、植付、収穫を楽しんでいる。そんな中で自然とその横を通る近所の人と会話が弾み、交流も生まれている。この他ドライブには頻繁に出かけ、バラ園、金沢神社、犀川、花見などに利用者は出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会長・施設長共に町会発足当初からこの町に住んでいる。当初から現在に至るまで町会の役員を多くしてきている。双方の行事などお互いに楽しく助け合って協力し、地域住民から色々な場で認知症又はその身上相談を受けることも多く、当ホームとの信頼関係が強い。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひまわりの報告協議内容として、年間運営活動計画、直近数ヶ月の活動について、火災通報避難訓練、BCP、ワクチン接種、季節行事、利用者の様子や生活状況等を報告し、さらに、参加頂いているご家族、町会、市役所、包括支援センター、有識者の方々からのご意見、ご感想、アドバイス、労いや激励の言葉を多く頂いている。毎回皆さんからの意見を聞きながら各職員からの意見や心構え等ももらって運営に活かしている。	利用者や家族、町会の人、近くの郵便局、金沢市、地域包括等が参加して二か月ごとに開催している。会議では二か月間の運営報告、皆様のご意見、グループホームの計画などが話し合われている。直近の12月の会議ではひまわり畑での芋掘り、リンゴの収穫、草むしり玉葱の植付等の活動、敬老の日やハロウィン行事の報告が行われ、利用者からの感想、家族からのお礼の言葉、行政からのコメントをもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多様な面で、市担当者、グループホーム協会、消防署、社会福祉協議会と連絡を取り合いながら、福祉に関する情報を早め早めに各分野から頂き、必要に応じて素早くご報告や相談を致している。研修や講義はオンラインで行うなど現状に応じた形をとっている。	昨年の能登半島地震の避難者を受け入れている関係で、金沢市とは事務的な手続きについての連絡を非常に多くとっている。この他、金沢市とは利用者の更新手続きや、何か不明な点があった時にはその都度問い合わせている。コロナ以降対面での研修は減っているが、オンラインでの研修等には参加して、金沢市との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本禁止という心構えで取り組んでいる。個々の性格、1日の動きを職員は共有し、安心でき、心から楽しく、汗をかき、ケアをしている。玄関は施錠をしないため、利用者の安全性を考慮し、玄関モニターを設置。人材面に関して特にこの仕事に適している方を選んで採用している。概ね3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。	身体拘束廃止の指針を策定して、身体拘束廃止委員会は令和6年度は3回開催している。研修は内部研修で、5月と11月に開催して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建物の施錠は夜間帯に、防犯上の観点で実施。行動制限を目的とした施錠はもちろん行っていない。センサーを利用している利用者もいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	例年、社長、施設長、全職員が高齢者虐待防止研修会(身体拘束廃止委員会含む)に出席している。常日頃から心からケアすることを念頭に置いて、左記の件などを話し合い、困ったときは、バトンタッチ方式で職員のストレスから左記の様な事が起きないように常に皆でストレスの原因を話し合って取り去る方法を笑いと共に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年は外部で開催されている成年後見制度等に参加している。以前からご家族からの必要に応じて説明の場を設けている。成年後見制度を活用した方の事例をミーティング等で話している。ホームを退居してどのようにして本人、家族の安心と納得ある支援継続を受けていたかを話し、今後も生かされるよう、日常会話として話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族や本人(自立度によりけり)左記の件は、原則として納得をし、入居している。入居後から終末期ケアについても詳細に話し合っている。介護度が上がるにつれ発症する症状について常に早め早めに話し合って相互納得して支援にあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等は気軽に施設長、ケアマネ、職員に伝える事が出来、また近況を聞き、ご家族の思いをご連絡頂ける状況になっている。また、利用者や家族の不安を先々と心配りし要望を数多く取り入れるため、職員も五感で感じ、双方より良いコミュニケーションを維持している。要件によっては運営推進会議で事例として話している。	コロナ以前はクリスマス、花見、バス旅行など家族参加の行事も行っていたが現在は中止となっている。家族へは毎月のお便りや、面会に来た時に時間をとって利用者の近況を伝えている。運営推進会議への家族の参加も多い。管理者からも、週に一度は家族へ電話を入れて利用者の近況を伝えるとともに、家族意見の聴取に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	質の高い職員を育成して意見・苦情は宝として取り入れて日常の業務の中からアイデアを出し合っている。職員からの提案を積極的に取り入れながら、特に職員の質の向上に力を入れている。	代表者も管理者も隣接する建物に居住しているので、いつでも職員と話し合っている。管理者は毎日の申し送り、ミーティング、職員会議等でも職員の意見や提案を受けている。コロナ以降懇親会は中止していたが、今年は施設内でランチ会を開いて、懇親を深めながら職員からの意見を聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の家庭生活を確認し、行動状況を念頭に入れ、個々の持つ能力を十分に発揮出来るようまた、職員の組合せ次第でより良い仕事出来るので、勤務表はそれらの点に充分気を付けて作成されている。適材適所の担当、仕事の仕方をして頂き、職員の得意分野を広げていき、左記の条件を満足出来るよう職員の声を聞き、就業状況を整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	介護技術・知識、感染症、防災、高齢者虐待防止、身体拘 束廃止他、外部研修・講演には常勤、パートを問わず積極 的に参加し、統一性のあるケア、情報を保っている。管理 者研修、実務研修(基礎・専門)等へは、各段階に合わせて 参加している。また、研修等で習得したものを当ホームに 於いて最大限生かせるよう全員が努めている。家庭的な雰 囲気を保つために年代別の職員を雇用。70代、60代、50 代、40代、30代、お互いに人間としての年代別の味を生か しそれをケアに生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	全国グループホーム協会石川県支部の定期的に行われる 理事会に出席し、早めの情報収集に努め質の良いケアを 目指している。また、研修等を通し他施設との交流を大切 にしている。また福祉に関係する病院での研修に積極的に 参加させて頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	「自分が本人または家族の立場であつたら」というこ とを念頭に置いて、利用者の心理状況を五感で感 じ、穏やかに傾聴をしっかりとし、共感、寛容の態度を 心から示して信頼関係を築いている。利用者同士お 互い助け合うという人間関係で大変平和で笑顔の絶 えない穏やかな日々であり、職員又利用者、家族に 感謝している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	上記にふまえ、左記の項目は家族の納得されるま で、傾聴し、命ある利用者を預かるので、現在も以 前より何でも言ってお知らせの関係があり、苦情は当 ホームの宝物と考えて、心から正していく姿勢である ことを話し行動で示している。ひまわりの利用者家族 同士の団結が非常に良好で強い絆となっている。運 営推進会議では家族の温かい言葉を多く頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	利用者の生活状況を直接現場で見させて頂き、相 談時に一番先に何を求めているのか、家族の 状況を把握して必要とする支援の順を見極め、双方 納得のいく支援を利用して頂く。本人また家族の要 望を実行し、ひまわりにて新たな生活を気持ちよく開 始できるよう努め、現在も利用者また家族より、力の 沸く声を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームは利用者と職員が共に時間を過ごし、お互 いに助け合う、大家族的なホームである。また、利用 者の方々には多くの知識と持ておられるので、職員 一同教えて頂くことが多い。礼儀・作法・常識・料理・ 畑仕事・お裁縫・金沢の60～70年前からの様子・利 用者の方々が10～30,40代に流行っていた曲等々。 脳トレで行っていることわざや熟語などは職員が、利 用者に教わる事が多い。利用者、職員一同運命共 同体と考え、助け合い、「動けることが一番」と利用 者の方々が話している。日々、感情豊かに過ごしてい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流・来所・電話などでの会話の際、本人の状況報告のみならず、以前の本人の姿やこういときはどうされたか、また、どのようにしたら本人にとってよいかお互いに考え解決に向うようにしている。家族の元へは毎月お便りと本人の活動の様子を写真をお送りし、大変好評を頂いている。また、希望の方にはテレビ電話で面会し大変喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの人(家族、親戚、友人)との関係はご家族の了承のもと継続されている。一緒に出掛けたり、自宅に戻ったり、外泊されるなど感染対策を強力頂きながら、本人にとって変わらない安心できる関係を大切にしている。インフルエンザやコロナウィルスの流行時は外出や人との面会は制限があるが、電話や、メール、写真を送り合うなど互いの関係を良好に保てるよう支援している。	感染対策をとってもらふことと人混みへは行かないことをお願いして、家族との外出・外泊もしてもらっている。友人との面会は家族から了解をもらって実施している。コロナやインフルエンザの状況を見ながら、利用者の以前住んでいたところやよく行っていた和菓子屋さんへドライブに出かけている。お墓参りにドライブがてら出かけたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲が良く、それぞれの部屋を訪れたり、利用者同士お互いに声を掛け合い、孤立しないように心を配っている。中の良い方同士同じ趣味(パズル、絵)を共有している。また、身体や言語不自由な方には職員が寄り添い、本人の意思を汲み取るよう支援している。職員も自発的に部屋に行き、喜怒哀楽を共にし、傾聴する姿勢を忘れず会話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も近所においてた際に、立ち寄られたり、電話や手紙などを頂いている。退去後、本人の今後について相談を受けたり、また、本人・家族の希望により当ホームを通じて他の施設、病院等に行かれても最後まで見守る関係を保っている。「母の次は自分達が入居(を予約)するわ」との言葉をよく頂く。又、退去後にも行事のお声を掛け、参加され共に楽しんで下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から入居前の利用者の情報を知る中で、取り組んでほしい点を検討して職員全員で共有し、個々の希望を早めにキャッチして、部屋の模様替え、リハビリ等の必要な方は、本人の得意だった分野を取り入れた方法(縫い物、絵画、歌、調理、畑仕事、家事)をケアプランに取り入れ、一人一人のペースに寄り添った生活支援に努めている。神社参りや墓参り、通院、ご家族、親戚、友人との外出等出来る限り意向を反映している。またホーム内での、さまざまな楽しみが出来るよう支援し、少しでも多く安楽に過ごせるよう努めている。	家族からの情報やアセスメントはもちろん参考にはするが、利用者のそばに付き添い、表情や動きから思いをつかむことを心がけている。いつもと違う状態の時には、そっと寄り添い話しかける。不穏な様子には「トイレ? 空腹?」等と考えながらそばに寄り添う。そしてトイレならさりげなく誘導し、空腹であればとりあえず温かい飲み物を出してあげると少し落ち着いてくる。このようななかかわりを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境、性格、一番輝いていた時期、嬉しい思い出などを家族等から情報を得ている。また、他施設の利用者から当ホーム利用の際、情報を提供して頂いている。お互いに協力しあい、楽しい生活が出来るように実行している。プライバシーに必要以上立ち入らないよう配慮しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	傾聴を個別に多くの時間をとり、好きな音楽、色々な所見を聞き出し、その時点でも活き活きた口調、目の輝きなど、しっかり憶えて実行に移すよう、またその人の体調に合わせた流れにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、ご家族からの情報を基にアセスメントを行っている。23.24.25項目を念頭において家族・担当医・職員で本人が一番望んでいることを反映できるよう、意見や要望をカンファレンス・運営推進会議の中で本人の現状に合わせて話し合い、参加出来ない家族には事前に希望を聞き計画を作成している。作成後、再度家族に確認を得ている。本人の意志の在る方は、希望を入れている。縫い物(刺し子、小物づくり)、料理、畑、謡など、希望されているものは全て、時間が少しずれても支援している。無理をせず日常生活の中に全てリハビリとして取り組むよう心掛けている。	管理者を含め、職員全員でアセスメントに関わり、本人家族意見等を勘案して、計画作成担当者が取りまとめ原案にしていく。サービス担当者会議で原案について周知した後、毎月モニタリングを行い、3カ月ごとに評価し半年で計画を更新している。何か大きな変化がある時にはその都度変更している。記録用紙には前夜から今朝の様子、昼間の様子、特記の項目に分けて暮らしぶりや行動の様子を記録している。また、入浴、バイタル、食事、排泄の状況についても記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記のことは当然として実行しながら、その人に応じたケアの状況を分かりやすく個別日誌に記入し、また、内容によって、業務日誌にて回覧ほか、申し送り、ミーティングで情報の共有に努めている。そのため、支援方法は職員間でよく話し合い、現状に即した対応を行っており、そのことによる介護計画の見直しは常に行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々人の尊厳を保ち、個別な外出支援(選挙、墓参り他)、季節毎の催し毎の支援(お正月・節句・お盆・クリスマス等々)普通に家族で行うような支援を行っている。また、医療との連携で通院、入退院、医者や家族と相談の上、早めに退院し帰所して頂き、ホームにてゆったりと過ごせるよう取り組んでいる。家族の要望や本人の状態に添った食事内容、旅行、畑、メディア等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会長、副町会長、民生委員、地域の方々には温かいお声を掛けて頂き、運営推進会議に参加される中で様子を把握して頂いたり、アイデアや協力を頂いている。地域のイベントにお誘いを頂いたり、公園や周辺への散歩を日課とし、互いに交流する機会を度々持っている。警察、消防、日頃お世話になっている所などに現状報告兼挨拶に伺っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より利用者の今後の体調の変化等、新しい情報も頂き、利用者及び家族の意向に合わせた受診支援をしている。又、専門医が必要な場合、家族と相談し、一番良い方法をとっている。常に医師とのコミュニケーションを円滑に行い、家族と共に、早期早めに利用者のことを生活歴等を念頭に置いて、常に今後の医療受診について話している。また、職員も医学の知識を増やすよう情報を共有し勉強をしている。	グループホームに入居後には利便性や安心感を考えて現在のかかりつけ医へと変更している。往診してくれて、24Hオンコール体制をとってくれるので、利用者家族も安心している。また、職員も夜間の対応してくれる医療機関であるので安心感が大きい。医師が往診時には、管理者とケアマネジャーが付き添って、利用者の状況を伝えるときに、医師から直接療養上の指示を受けている。他の医療機関の場合には職員が通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員からのアドバイスを受け、少しの変化でも家族、主治医に早く早めに連絡し対処しているので、主治医の見極めが早く、医院は車で5分の所にある。24時間対応を頂いており、主治医、看護師より随時指導を頂いて(入居前からの主治医とも継続しながら上記の様に行動している)、家族にその都度連絡を詳細にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず家族、医師、社長、施設長、ケアマネが応対、医療方法を聞き、当ホームの方針により早期退院について話し合い、常に早めに退院が出来る。病院で退院後のリハビリ、食事、入浴方法等を研修させて頂いている。入院中は家族と連絡を取りながら（連絡ノートを常備）、馴染みの品を持っていく他、食事介助、付添を行い、状態を聞きながらリラックスして頂けるように工夫している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームの方針として、理解出来る方には本人、家族の希望を取り入れ入居前の見学時から終末期について説明し、入居後、定期的に病状の変化などを説明する。その都度、ご家族・認知症専門医・当ホームで意見を出し合って終末期ケアについての方針を共有する。ターミナルケアで今まで入居者の4/5の方を見送っており、この経験を生かし、24時間の医療連携を整えている。現在 たんの吸引・経管栄養の資格を4名が取得している。今後も全員資格を取得し安心したターミナル支援を提供する。	今年度も看取りの事例がある。入居時に重度化の指針に基づいて家族には説明しているが、実際に看取りの段階に入って、家族が入院を希望した場合には家族の気持ちを優先した対応を行っている。看取りの段階に入ったら主治医から家族に説明してもらい、ここで看取ることの同意をもらっている。職員体制も夜勤者に加えて、管理者がケアマネジャーも加わり2人体制で対応することが多い。今年度死亡した97歳の方は、子どもや孫に見守られながら亡くなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上記に続いて左記の件についての研修がある時、全て参加し、その上で定期的に事例を上げて話し合い、また、早めに救急蘇生法、少人数でも起こりうる場所で万一を予測して予防または発生時の訓練をしている。また、以前と変わらず町会のひまわり支援隊8名を組織して頂いており急変や事故発生時についても話し合い、いろいろなアイデアを頂くなど大変心強い状況で現在に至る。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応のマニュアルや連絡網を作成し、マニュアルはすぐに手の届く場所、連絡網は日誌内や電話の近くに配置しいつでも目の届く場所で管理している。ヒヤリはっと報告書を基にミーティング・カンファレンスで緊急時の対応やリスク管理について話し合い合っている。トイレからも近い部屋や、看護・見守りがしやすい部屋も準備されており、いざという時の体制を整える。	「マニュアル②」というファイルの中に、「事故防止・再発防止・緊急時の対応マニュアル」、「感染症および食中毒の予防・まん延の予防取り扱い手順マニュアル」などが綴られている。この他、「感染症発生時における業務継続計画」も作成されている。マニュアルを周知するための取り組みとして、机上での話し合いを、機会があるごとに行っている。そして、個別の対応方法を職員間で共有するための、訓練と研修を合わせたミニ実地訓練にも頻繁に取り組んでいる。また、ヒヤリハットも作成し、その対策を検討・周知するなどして事故防止に取り組んでいる。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	バックアップ機関の医師、介護老人福祉施設等の方との連携もしっかり保たれ、色々とアドバイスを頂き、また、専門医の診断を定期的に受けるなど、充分支援体制と連携がとれている。利用者も家族も不安のない様に支援体制をとっている。医療連携を24時間行い、かつ、現在、たんの吸引・経管栄養の資格を5名が取得し、全員の取得を目指している。	協力医療機関の医師は、月2回程度往診に来ていている。利用者は月1回診察の方と月2回診察を受けている方がいる。協力医療機関とは、1年を通して24時間連絡が可能である。この他、訪問看護による月数回の訪問がある。また、協力歯科は、必要な時に受診し、通院できない方には往診してくれる。「歯科医師、歯科衛生士からのアドバイス」が文書で提示され、支援体制が確保されている。そして、職員5名が「介護職員等によるたんの吸引等研修」を修了しており、医療機関と密に連携できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤職員の他に、同一敷地内に会長、施設長が居住。また、車で3～10分で出勤できる職員が多く、協力姿勢が強く、町会、地域の方々にも協力隊を組織して下さり、日中夜問わず、年数が経つごとに大変心強い状況であり、夜勤者も安心して良い仕事をしている。	1ユニットなので1人夜勤である。19時から翌朝8時までは1人体制である。この夜間帯に、利用者の状態に変化があった時には、夜勤者からグループホームと同一敷地内に住んでいる管理者へ連絡を入れている。連絡を受けると管理者はすぐにホームへ行き、対応している。救急車を呼んだ場合には、家族へも連絡するが、救急車には管理者が同乗している。救急搬送の場合は、金沢赤十字病院または南が丘病院に搬送を受け入れてもらうようお願いしている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、火災避難訓練、通報訓練、水害訓練、災害が発生した後の業務の継続について等々、色々と想定して新入社員も含め避難訓練を定期的に行っている。日頃から町会の協力を頼み、信頼関係を保っている。町会でひまわりへの緊急時支援隊を組織して頂いており感謝している。	令和6年度の防災訓練は、11月1日避難訓練、11月14日通報訓練、12月25日避難訓練、12月27日通報訓練を実施している。訓練前に消防署へ「消防訓練計画書」を提出し、職員へも周知している。また、訓練後は、「火災・避難訓練」として記録を作成し、職員に回覧し、訓練を振り返ることで職員の防災意識を高めるよう努めている。また、町会でグループホームひまわりへの緊急時支援隊が組織され、地域と連携している。消防設備点検は、年2回実施されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	非常時の対応マニュアルの整備や連絡体制、利用者情報等、備蓄品（利用者と職員分）の点検、火災通報装置、スプリンクラーの設置など非常事態に備えている。発電機（ガスボンベ使用）、長期保存食品、飲料水の補充、新たに必要と感じたものは職員と話し合い備蓄している。能登半島地震では多くの衛生用品（紙パンツ、パット等）をグループホーム協会を通して寄付した。	「非常災害時の対応マニュアル」が作成されている。火災、地震、風水害、豪雪について記載されている。また、「自然災害発生時における業務継続計画」も作成されている。マニュアルの周知は、机上での話し合いを機会があるごとに行い、また防災訓練などの機会に周知している。備蓄については、長期保存食品、飲料水、生活用品や衛生用品などを備蓄リストに基づき賞味期限や数量を管理し、必要な入れ替えを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを最優先にという考えのもと、職員gの人材育成に力を入れており、職員の心の健康が質の良いケアに繋がるという信念を掲げ、ミーティングやカンファレンスに、道徳、心の教育に努めている。現在は利用者に対する器の大きい職員が細部まで上手に対応している。	「マニュアル①」というファイルの中に、「認知症への対応及びケアマニュアル グループホームひまわり」が綴られている。このマニュアルに沿った支援を心がけている。本人の希望に沿って、本人のペースに合わせた支援ができるよう、本人のサインを見逃さないよう、そのサインを職員間で共有するよう努めている。プライバシーに関して、入浴場面において同姓介助を希望される方には、同姓介助で対応している。排泄場面においては、「そっと、手早く」対応するよう心がけている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上記に同じく、ミーティング等にて一人一人の生活歴、希望、現状を把握理解している。日常の生活、歌、軽体操、散歩、大きな行事に至るまで、ほとんどが利用者さんの希望であり、実現している。左記の件は家族も本人も充分満足されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームは最初からグループホームでは当然と考えている(上記とおり)。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は常に「自分が利用者の立場であつたら」ということを念頭において支援している。身だしなみ、おしゃれをする時間は1日の流れに入っており、皆が楽しみにしている時である。季節感をこの時間は洋服選びから自分の意見をはっきり言え楽しそうである。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番楽しい様子で、ひまわりは利用者と共に作っている新鮮な野菜(ホームの畑)、家族、友人や近所からの多くの届け物を使った食材をを利用者から寮にの方法を色々和教わり大変楽しい。現在も実行しているが、ひまわりの畑で利用者の希望の作物を作り、収穫した物を家族や近所の方々にお裾分けしている。四季感のある食卓が当ホームの特徴である。利用者馴染みの味付けに特に気配りをしている。また、状況に応じて、2階ホールや居室で友達同士で色々和工夫して楽しく食べて頂いている	食材は、ホームの畑で採れたものや近所からもらったものを有効活用している。これ以外のものは、近くのスーパーへ職員が1週間から10日に1回肉や魚などを買いに行っている。献立は、栄養のバランスとカロリーを考えて、その日の食事担当者がホームにある食材を見て決めている。野菜が足りなかったら畑に採りに行っている。調理は、現在は手伝える方がいないため、職員の方で調理している。出来上がった料理は、常食であつたり、刻み、ミキサー食、トロミなど、本人の状態や体調に合わせて提供している。食事中職員は、見守りや介助しながら食材など食に関する話を話している。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の可動性に合わせた栄養のカロリーを考慮し、家族、病院で摂取状況を確認の上、栄養バランスのとれた調理に心掛けている。軟粥、刻み食、また小食の方の為、三食の食事では栄養が十分に摂れない方は間食を工夫するなど、一人一人に合った支援を行っている。ホールには日中自由にお茶が飲めるようにポットと湯飲みを設置。全ての利用者が水分を充分確保されている。利用者同士が声を掛け合い、スタッフは確認し、また、全介助の方には、水分補給時に、何かをどれだけ摂取したか、職員間で情報を共有し、水分不足にならないように徹底している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。様子をみながら声掛け、見守り、チェック、介助している。虫歯や義歯の調整は早めに対応している。口腔ケアについて他、歯科医師や歯科衛生士より指導受けているほか、いつも口腔ケアが良く出来ていると評価を頂いている。利用者が清潔で快適な日々を送って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のサインを見逃さず、職員がそのサインを共有しており、自尊心に配慮し、さりげなく誘導するよう支援している。体力や自立度に合わせ部屋の位置(トイレに近い等)やトイレの扉の構造も考慮している。また、排尿に慢性化した病氣を持つ方には、医師と連携しながら、安心した生活を送れるよう日々支援している。	利用者一人ひとりのサインを見逃さないため、職員はそのサインを共有している。自尊心に配慮し、さりげなく誘導するよう支援している。現在自分でトイレに行く方4名、声かけが必要な方2名、全介助で定時のオムツ交換の方3名である。また、現在布パンツで日中過ごしている方3名いて、内2名の方はホーム入居後に布パンツになっている。トイレに近い居室に入居してもらい、トイレの声かけの回数も増やした。また、空調管理により、冬季でも着込まなくても過ごせるようにすることで衣類の着脱に手間取らないように配慮している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、便秘の原因を調べ、異常がない場合は、薬に頼らず、食物繊維の多い食事内容にし、また、毎日適度な運動をする他、生活リズムを整えている。食べられない方は医師と相談。お腹を「のの字」にさすることなども予防方法に取り入れている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好む人と拒まれる人の希望を聞き入れながら、利用者とスタッフが話し合っ決めていく。利用者全員また、家族の方にも入りたい時間帯を聞くと、やはり安全な時間(昼間)を希望される方が多く、夜間は本人が万が一を考えて避けることを希望している。現在のところ職員をねぎらって下さる利用者が多く幸せな流れが続いている。入浴時は出来る事は自分でして頂く事に力を入れている。	入浴は、その方が入りたいと言った日に入浴してもらうようにしている。週2回を目標にし、3日程度間が空くように配慮している。入浴は1階で行い、2階ではシャワーすることができる。現在入浴を拒まれる方はいないが、風呂上がりの楽しみを作っている。風呂上がりには、のんびり会話しながらアイスクリームやデザートなどの果物を食べている。また、拒まれる方には声かけを工夫し、手だけ洗おうね、汚れた所洗おうねなど、段階的に入浴に誘っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、雨が降っていないければ、必ず、散歩、外出、外気良くをし、どんな時でも残存機能を活かした日常生活を送っている。個別での軽作業、レクリエーション活動、本人がしたい事を行っている。施設内は日中、有線の曲を流して、季節に応じた音楽やリラックス出来る音楽、また、利用者の家族から頂いた懐メロCDを流している。夜、安眠を取りづらいう方は医師と相談している。フットケア、温かい飲物を飲んで頂くなど工夫をしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬剤管理表があり、職員は、利用者の薬剤を把握している。家族、担当医と相談して当ホームは薬を少なくしていくケア方法をとっている。また、薬の副作用をつねに念頭に入れておくよう職員に指導している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症を念頭に置いて、利用者の顔、声、空気を読んでもらえれば直ちに分かる。これも、家族、職員利用者皆の心からの絆で、楽しく一丸となって生活を楽しまれていて、職員一同感謝している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染警戒時期や猛暑の時期は、高齢の方々の健康為、外出に制限があるが、例年、充分に安全を心掛け支援を地域の方々、家族の方々の協力を得て利用者の希望にそってどんどん実行している。散歩、畑、外食、ドライブ、映画鑑賞、恒例となっている地域の方々・家族との日帰りバス、コンサート(風と緑の楽都金沢音楽祭)、美術鑑賞(県立美術館)、お宮参り、墓参り他。元気であればどこでも行けるよう支援している。散歩では町会の方が、自然と寄って下さり、世間話をして過ごし和やかな時間を共にしている。今後一層より良い環境を提供したいと考えている。	気候の良い時期や天気の良い日は、近くの公園や川沿いに出かけている。ドライブとして県立美術館へ行ったり、県教育センターへ花見ドライブ、金沢神社と兼六園に梅の実をもらいに出かけたりしている。また、利用者皆さんの馴染みの和菓子屋、魚屋、花屋、寺、神社などにも出かけている。希望する方だけであるが、墓参りにも出かけている。頻繁に出かけていることとして、ホームの畑に収穫しに出かけたり、苗植えなどの作業に出かけている。利用者の皆さんは楽しんで収穫や畑作業に取り組んでいる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	万札は当ホーム事務所で預り、外出時の小銭は各自の能力に応じた適切な支援を行っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来ている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎年の事で少しずつ花と緑を絶やさない様に心掛け、全ての物品に本物でホッと一息出来るように工夫した。中庭では、道路から適度に目隠しとなる木を配置。トイレは利用者が安らいで使えるよう自宅と同じような広さを考慮し改築した。全ての所を五感に優しく感じるように造っているため、現在のところ好評である。床は温水暖房をしている。トイレも安心感のあるカーテン等を工夫した。外庭を洋風のテラスにして、散歩の帰りにそのテーブルと椅子を利用してお茶を飲み一服している利用者から講評を得ている。	ホームの建物内や庭などホームから見えるものは植物であり、緑の中で生活している感覚にもなれる。庭には一年を通して四季それぞれに咲く花を見ることができ、季節を感じるができる。また、ホーム内の壁などには、折り紙で作った季節の作品や絵、習字など目に付くところに掲示してある。共用スペースに生け花を飾ったりもするが、現在はトラブルが発生するため早めに引き上げている。ホーム内には有線放送が流されていて、リクエストすれば好みの曲を聴くことができる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭、居室などをその時の状況に応じて上手く使用し、2階ホールで仲良く常に話し合ったり、利用者同士で決めている(昼寝時間など)時の流れを楽しまれている。利用者一人一人に応じた違う造りとなっている居室は、カーテン、障子、家具など利用者好みを反映した。各部屋には応接用の机・椅子、生花や観葉植物があり、利用者だけでなく、訪問客が各部屋でゆったりとくつろげるよう配慮している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅を改修した造りで、各部屋がそれぞれ違う間取りや雰囲気となっている。認知症の動きを考慮して、居室内全体が戸惑いのない整理整頓を行っている。また、好みの花、本、写真、壁飾り、時計、孫からのプレゼント、落ち着く状態の品を多く取り入れるよう気を付け、シンプル好み、物を多く置きたい方などを見極めて過ごしやすい清潔かつ安全な環境を保つよう心掛けている。現在まで家族、利用者共に、最期まで居たいと言われる方が全員であり嬉しくこの状態を維持したいと思っている。	居室は本人のプライベート空間であるので、必要以上に入り込まないように配慮している。本人たちの好むように使ってもらい、仲の良い利用者同士で行き来もしている。ある程度居室の掃除ができる方は4名いて、職員は不十分な箇所を掃除している。自分で出来ない方の居室は、職員が掃除し清潔を保持し、居心地よく生活できるよう努めている。居室の中には、筆筒や椅子、ソファ、テレビなど自分が持ち込んでいるものもあれば、レンタルで設置されているものもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木のぬくもりを大切にして、利用者の自立度や体の状況に合わせた部屋選び、また、利用者のリハビリに応じて椅子や机、手摺りを変えたり、トイレのドアも変えるなど色々と工夫をしている。この方法も利用者の心を読みとり、利用者、職員の話し合いの中で決め、支援している。		